

気象業務 150 周年企画展

OBSERVING EARTH

地球を測る

今は宇宙からも
測っているんだって
ばくたちが案内するよ



企画展ナビゲーター
あーすん



気象庁マスコットキャラクター
はれるん

150年前の
人たちはどうやって
測っていたのかな



国立科学博物館 (東京・上野公園) 日本館1階企画展示室および中央ホール
National Museum of Nature and Science (Ueno Park, Tokyo)

2025
03 / 06
25 → 15
TUE SUN

開館時間／9時～17時

※4月26日(土)～5月6日(火・休)は18時まで ※入館は各閉館時刻の30分前まで

休館日／月曜日、5月7日(水)

※ただし3月31日(月)・4月28日(月)・5月5日(月・祝)・6月9日(月)は開館

入館料／一般・大学生630円(団体510円)

※団体は20名以上

※常設展示入館料のみでございました

※高校生以下および65歳以上は無料

主催／国立科学博物館

特別協力／気象庁

協賛／日本気象協会

後援／地球ウォッチャーズー気象友の会ー

掲載資料 上から
地電気自記器
ロビンソン風速計
ひまわり9号 画像：気象庁
凌風丸 画像：気象庁



国立科学博物館
National Museum of Nature and Science

地球を測る

1875年6月1日に東京気象台（現在の気象庁）において、我が国の気象業務としての気象・地震観測が始まりました。本展では、さまざまな自然現象を観測する手法やその歴史、これまで蓄積されてきた観測データから地球環境の様子やその変化が明らかになり、また防災・減災にも大きく貢献していることを紹介します。



1章 自然現象を測る

地球や宇宙では、目に見えないさまざまな自然現象が起こっています。人々はいつそれらの現象に興味をもち、「測る（観測する）」ことを始めたのでしょうか。ここでは、明治になり日本の近代化が進むなか、どのように地球で起こる自然現象を日本で測り始めたのかについて紹介します。

日本初の印刷天気図
所蔵：気象庁



2章 大気と海を測る

「今日の日中の最高気温は35度を超えました」、「明日は1日で100ミリの大雨となるでしょう」、「地球は温暖化が進んでいます」といった言葉を、普段の生活の中で聞いたことがあると思います。これらはどのように調べているのでしょうか。この章では、大気や海洋の観測がどのように行われているか、なぜ行われているかを紹介しします。



気象庁火山防災
マスコットキャラクター
ぼるけん



超音波式風向風速計
所蔵：気象庁

3章 地球内部を測る

地球の内部がどうなっていて、何が起きているか、知っていますか。私たちは地球の中を直接見ることはできません。どうやって調べるのでしょうか。そして、何がわかるのでしょうか。地震や火山、地磁気、地殻変動などの観測から、私たちが暮らす地球の中の様子をのぞいてみましょう。



トランシット
所蔵：国立科学博物館

4章 宇宙や空から地球を測る

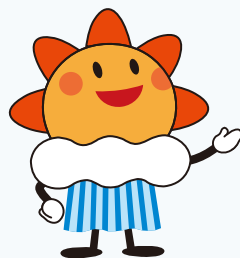
150年前は地上からの観測だけでしたが、現在では宇宙や空からも観測できるようになり、測る精度も上がっています。人が立ち入れないような場所も含め、人工衛星や航空機が地球を見守るために活躍しています。この章では、宇宙や空からどのような現象を測ることができるのかを紹介しします。



REGMOS
所蔵：国土地理院

中央ホール 人はなぜ地球を測るのか

150年前、日本では近代的な観測機器で自然現象を記録し始めました。気象や海洋、地震、火山噴火などを知るために観測が始まり、その後、現象のメカニズムを理解し、予測や防災・減災につなげるために継続されてきました。ここではこれまでの観測データを活用した現象の予測や、今後期待される観測について紹介します。



スーパーコンピュータ
「京」システムボード
所蔵：国立科学博物館
寄贈：理化学研究所



アクセス

- JR
「上野駅」公園口から徒歩5分
- 東京メトロ 銀座線・日比谷線
「上野駅」7番出口から徒歩10分
- 京成電鉄
「京成上野駅」正面口から徒歩10分

※当館には駐車場および駐輪場はありません。

〒110-8718 東京都台東区上野公園7-20
TEL：050-5541-8600（ハローダイヤル）
FAX：03-5814-9898
<https://www.kahaku.go.jp/>



国立科学博物館
National Museum of Nature and Science

